



**2009 年度
国際防災研修センター
活動報告**





2010年4月

Disaster Reduction Learning Center

国際防災研修センター

はじめに

国際防災研修センター（DRLC : Disaster Reduction Learning Center、以下「DRLC」という。）は、JICA と兵庫県が 2007 年 4 月に共同設立して以来、神戸東部新都心（HAT 神戸）を中心に兵庫県内の多彩な防災・国際機関と連携し、幅広い協力と支援のもと、日本、特に阪神・淡路大震災を通じた兵庫県や神戸市の経験・教訓と蓄積された知見を活かして、開発途上国の国づくり人づくりを支える JICA の防災分野研修の計画・運営を総合的に調整、支援する様々な活動を展開しています。

本報告書は、DRLC の設立から 3 年目の活動総括の年となる 2009 年度に実施した活動内容をまとめたものです。

1. DRLC について

(1) 背景

1995 年に発生した阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）は、近代日本が初めて経験した都市直下型地震で、兵庫県神戸市を中心に甚大な被害をもたらし、死者約 6,400 人超、被害総額が約 10 兆円に及ぶ未曾有の大災害となりました。しかしながら、国内に留まらず広く世界から多くの支援を受けて、被災地域は急速な復旧を実現し、総力を挙げて復興に努め、この経験と教訓を基に現在も防災・減災に重点を置いた社会作りを積極的に推進しています。

この大震災から 10 年目の 2005 年 1 月に神戸市で開催された「国連防災世界会議（兵庫会議）」では、その後の世界の防災戦略の指針となる「兵庫宣言／兵庫行動枠組 2005-2015」が採択されました。この中では、世界の災害被害軽減に向けて、途上国の災害対応能力を国際的な協力を通じて緊急に強化する必要性が言及され、特に災害の予防、被害軽減、備え、脆弱性を軽減することの重要性が強く謳われています。また、この会議で日本政府は、開発途上国に対する開発援助にも防災の視点を積極的に取り込み、日本の国際貢献として、ODA（政府開発援助）を通じた途上国の人づくりや制度構築のための自助努力を支援した防災協力を行う「防災協カイニシアティブ」を提唱し、日本の持つ災害対応に係る豊富な知見を国際協力に一層活用していくことを表明しました。

(2) 目的

阪神・淡路大震災の復興シンボルプロジェクトとして神戸市東部の臨海地に整備された新都心「HAT 神戸」には、JICA 兵庫のほか、WHO 神戸センター・国連地域開発センター・人と防災未来センターやアジア防災センターなどの防災関連、国際交流・国際協力機関が数多く集積しています。DRLC は、こうした様々な国際機関・防災関連機関と連携して、防災分野の人材を育成していく視点から、阪神・淡路大震災などの日本の災害経験と知見に基づく防災技術を広く効果的に世界に発信し、開発途上国の防災力向上に貢献することを目指しています。

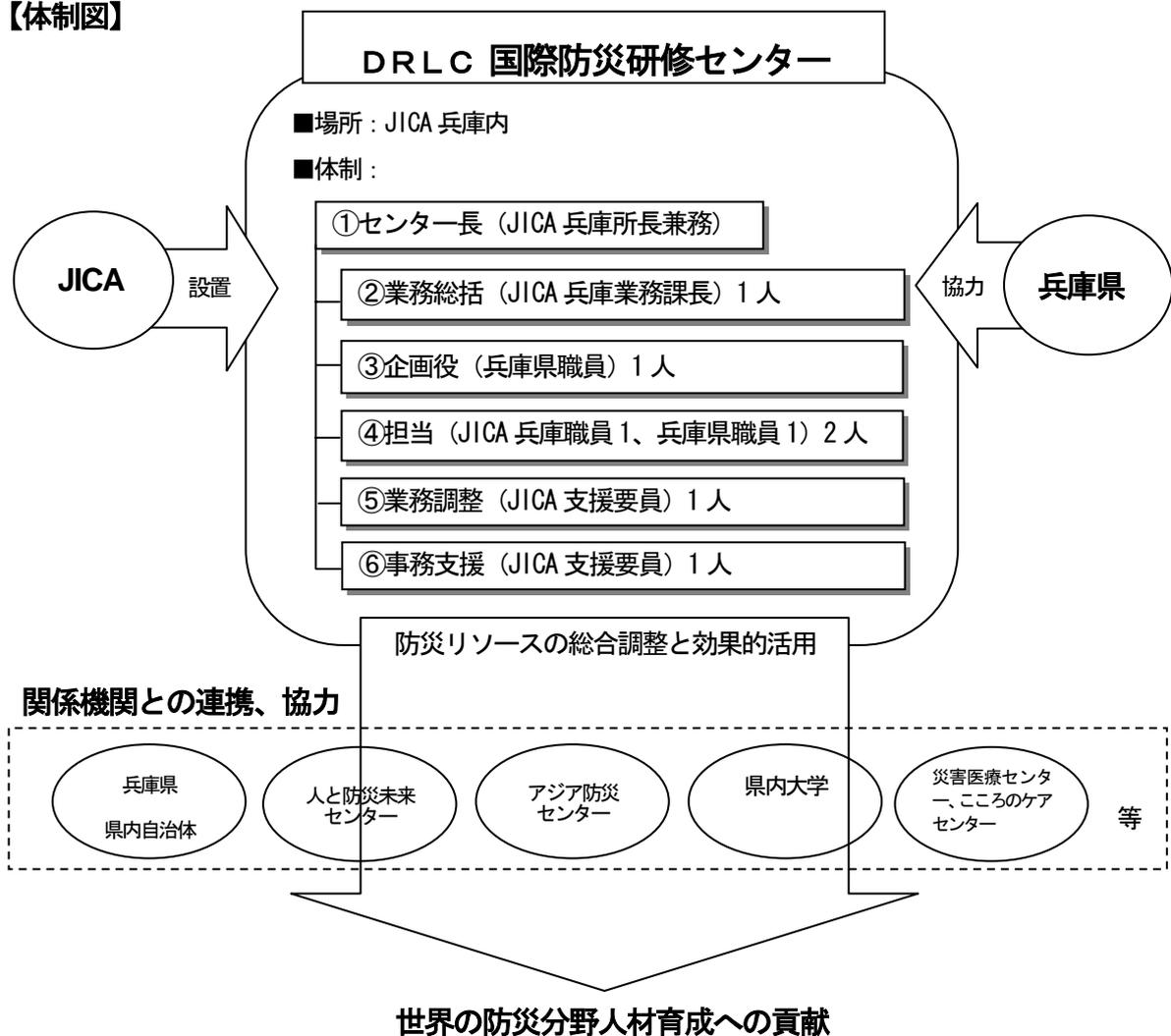
(3) 活動

DRLC は、日本、特に阪神・淡路大震災を通じた兵庫県や神戸市などの経験・教訓と蓄積された知見を活かし、開発途上国の国づくり人づくりを支える JICA の防災分野技術研修を総合的に調整、支援するため、次のような事業を展開しています。

- ① 防災分野研修の総合調整
- ② 防災分野研修の実施
- ③ 防災分野研修における人のネットワーク構築とその有機的な活用
- ④ 防災分野研修に係る活動資源のデータベースの整備とその効果的な活用
- ⑤ 防災分野研修に係る調査研究の実施

(4) 体制

【体制図】



2. DRLC の 2009 年度の主な活動について

DRLC 設立 3 年目となる 2009 年度中に行った活動概要は、次のとおりです。

国際防災研修センター 2009 年度活動実績

国際防災研修センター

1. JICA 兵庫における防災分野研修の機構内調整機能強化を支援

(1) 防災分野研修の総合的な調整支援

■ 防災・気候変動適応アジアフォーラムの開催支援

➤ JICA が防災分野の国際貢献に注力する兵庫県と協力し、大規模災害が多発するアジア、特に多彩な分野で地域協力推進の土台となる東南アジア諸国連合 (ASEAN) 地域を対象に、防災及び災害に因果関係の深い気候変動への適応に視点を置いて、

① 人材育成の強化を中心とした各国別技術協力プログラムの形成

② 日本を含めた防災連携のための課題解決型ネットワークの構築

を目指して開催した JICA 主催フォーラムの全面的な開催支援を行いました。

・ 実施日：2009 年 4 月 22 日－25 日

・ 参加者数：ASEAN 諸国、ASEAN 事務局 22 人

日本側（関係機関、JICA 関係者、一般） のべ 70 人

■ 防災分野研修 JICA 内担当者連絡会議の開催

➤ 2007・2008 年度に引き続き、防災分野研修を実施する国内機関等（札幌、東北、東京、筑波、大阪、兵庫）の担当者が一堂に会し、防災分野事業及び研修実施に係る情報共有と意見交換を行いました。併せて、参加者に対し DRLC が主催実施している研修員参加による総合防災イベントで「防災文化の継承」をテーマとする防災教育プログラム「イザ！カエル大キャラバン！」の説明・視察を実施し、兵庫の阪神・淡路大震災関連リソースの紹介を行いました。

・ 実施日：2010 年 1 月 31 日－2 月 1 日

・ 参加者数：6 国内機関、JICA 本部 15 人

■ 阪神・淡路大震災関連リソースの提供と調整

➤ JICA 兵庫所管の防災分野研修コース（集団・地域別研修、13 コース）以外に、管外の防災分野研修と JICA 関連プロジェクト関係事業に対しても、積極的に兵庫県が有する研修リソースの提供、研修実施、調整支援（助言、仲介、斡旋）を行いました。具体の支援事業は、次のとおりです。

事業	支援形態	時期	所管
中華人民共和国「災害後のこころのケア計画」	実施	09 年 6/10-20	JICA 兵庫
イラン国別研修「防災訓練」	実施	09 年 8/26-9/7	JICA 兵庫
中国国別研修「(災害) 精神保健専門家研修」	実施	09 年 10/18-27	JICA 兵庫
ベトナム国別研修「中部地域災害に強い社会作りのための能力開発」	実施	09 年 11/15-26	JICA 兵庫
イラン国別研修「地震災害管理」	実施	09 年 11/15-28	JICA 兵庫
中米国別研修「総合防災」	実施	10 年 1/31-2/6	JICA 兵庫
イラン「ODA 実務者研修」	調整	10 年 1/22	JICA 東京

ユカタン半島における気候変動適応策策定支援プロジェクト カウンターパート招聘研修	調整	09年9/25	JICA 本部
国際緊急援助隊救助チーム総合訓練	参画	09年11/18-20	JICA 本部
インドネシア国別研修「救急・災害医療セミナー」	調整	09年11/23	JICA 大阪
海外メディア本邦招へいプログラム	調整・講義	10年1/13-18	JICA 本部
国際緊急援助隊 INSARAG 外部評価 (IEC) 受検	参画	10年3/9-11	JICA 本部

(2) イベントを通じた防災意識、国際協力理解の醸成、

- 阪神・淡路大震災の発生日である1月17日の時期を捉えて、災害被災の経験や体験を防災対策に活かす「防災文化の継承」を主眼に、阪神・淡路大震災の経験から生まれた防災教育プログラム「イザ！カエルキャラバン！」を核としてHAT神戸の諸機関と連携してJICA 防災分野研修員と市民が広く交流し相互に学習する多様な総合防災イベント「イザ！カエル大キャラバン！in HAT 神戸」を開催しました。
 - ・実施期間：2009年12月、2010年1月（キャラバン本体は1/31）
 - ・参加者（来訪者）数：のべ約1,750人（直接主催事業のみ）
 - ・内容： 「イザ！カエル大キャラバン！in HAT 神戸」、「世界のTAKIDASHI（炊き出し）フェア」、「世界の保存食」（以下、関係機関共催）「おはなしひろば（人と防災未来センター）」、「朗読の集い2010（人と防災未来センター）」、「防災世界子ども会議フォーラム2010（人と防災未来センター）」、「1.17 防災のこころを伝える絵手紙展 2010（人と防災未来センター）」、「阪神・淡路大震災 15年震災の絵展（兵庫県立美術館）」、「コンサート：祈り・夢・未来～文化復興・神戸からの願い～（兵庫県立美術館）」、「スタジオジブリ名曲コンサート（兵庫県立美術館）」、「国際協力入門セミナー（兵庫県国際交流協会）」

2. 防災分野研修の効果的、効率的実施を促進

(1) 研修受入先等関係機関との連携強化

■ 研修コースリーダー等カリキュラム作成担当者との意見交換会

- 防災分野研修コースのコースリーダー又は担当者など特に研修内容の策定に携わる関係者を集め、防災分野研修をより効果的に実施するため、研修運営に係る共通課題、講師・視察先や研修手法などに係る情報や優良事例の共有と意見交換を行い、研修運営に還元し得る機会を設けました。

また、研修を通じて各研修員がより効果的なアクションプランを作成するための学習プログラムを紹介しました。

- ・実施日：2009年5月26日
- ・参加者数：9機関（14人）
- 研修コースカリキュラム作成関係者を対象に、先に紹介したアクションプラン作成学習プログラムの実施状況を視察し、実際に体験する機会を提供しました。

内容	時期	参加
「アクションプラン作成手法の紹介」実践視察会開催 (貿易促進コースでの実践状況を視察)	09年6/8	4機関7人
「課題分析ワークショップ」疑似体験会開催	09年6/22	5機関8人

■ 関係機関との連携強化

- 防災分野研修のみならず、DRLC 事業全般で県内防災関係・国際機関と連携しました。また、関係機関に対しては、下記の具体的な事業連携・支援を行いました。

内容	時期	支援・連携機関
ラウンドテーブル「国際協力とコミュニティラジオ」への参画	09年6/11	世界コミュニティラジオ放送連盟(AMARC)日本協議会
「兵庫の国際防災協力」講義	09年6/15	兵庫教育大学
神戸大学企画の中国四川省でのワークショップ実施に際し、JICA 中国事務所・心のケア人材育成プロジェクト・耐震建築人材育成プロジェクト関係者の参加調整	09年9月	神戸大学都市安全研究センター
「こころのケアシンポジウム」開催支援(広報展示)	09年11/22	兵庫県こころのケアセンター
「国際復興協力ワークショップ」共同開催	09年12/17	アジア防災センター、国際復興支援プラットフォーム
ISDR「都市減災アジアタスク会合」参画	10年1/14	国連国際防災戦略兵庫事務所
「アジア防災会議2010」開催支援	10年1/17-19	アジア防災センター
「日本トラウマティック・ストレス学会主催市民公開講座」開催支援	10年3/6	兵庫県こころのケアセンター
国際防災シンポジウム「世界の被災地と情報・コミュニケーション支援」の共同開催	10年3/17	世界コミュニティラジオ放送連盟(AMARC)日本協議会
「都市安全の高度化に関する国際シンポジウム」後援	10年3/27-28	同シンポジウム実行委員会
神戸大学主催連携融合事業へコアメンバーとして参画	随時	神戸大学都市安全研究センター

(2) 参加型ワークショップ手法等研修リソースの情報収集

■ 国内防災リソースの調査実施

- 阪神・淡路大震災関連の研修リソースのみならず、兵庫での防災研修リソースを補完する国内防災リソースの調査を、以下のとおり実施しました。

内容	時期	調査者
中越地震後の復興過程における新潟長岡市のこころのケア活動	09年6/14-16	細川
台風23号(2004年)による水害の教訓とその後の対策(豊岡市)	09年8/26	細川、川池
仙台市消防局におけるコミュニティ防災、他東京等	09年9/2-5	細川
姫路防災プラザ	09年10月21	細川、川池
西大阪治水事務所、大阪 津浪・高潮ステーション	09年11月26	川池
九州における災害医療、僻地医療、火山災害関連リソース調査	09年12月2-4	横川
島原半島におけるジオパーク構想・福岡市における水害	10年2/1-4	細川

(3) 新たな研修教材の開発、作成及び活用

■ 研修教材(災害時多言語情報放送ツール:DMAM)の活用事業の実施

- 2007年度に世界コミュニティラジオ放送連盟(AMARC)日本協議会(事務局:神戸市長田区コミュニティラジオ局「FMわいわい」と共同開発した研修教材である多言語災害情報音声素材集『DMAM(Disaster Management Audio Materials for Community Radio Broadcasting)』を地域コミュニティの防災活動に具体的に活用するパイロット事業をインドネシア国ジョグジャカルタ(2006年ジャワ島中部地震被災地)にて実施し、この成果を基にDMAM活用手法を提案するハンドブック

「Handbook to utilize DMAM for CBDM」を作成しました。

(＊配布用製本等は次年度実施予定。)

■ “BOKOMI” Guidebook の作成

- 神戸市消防局の協力を得て、神戸市が実施する「防災福祉コミュニティ」の活動手引き書『防コミブックマーク』と防災教育支援ガイドブック『BOKOMI スクールガイド』の中から開発途上国でも活用できるコンテンツを抽出して英訳を行い、2010年1月に『“BOKOMI” Guidebook』を発行しました。今後、JICA 研修コースでの活用のみならず、JICA のプロジェクトの活用を進めていきます。

■ 参加型学習教材「被災地復興シミュレーション 納得するまちづくり」の活用

- 2008 年度に神戸学院大学防災・社会貢献ユニットと共同開発したロールプレイ手法を用いた体験型学習教材「被災地復興シミュレーション 納得するまちづくり」の活用の一環として、2009 年度「自然災害からの復興戦略」コースの研修員に対しワークショップを実施しました。なお、次年度以降も研修活用するため、ファシリテーターの養成も兼ねて教材を作成した学生が、下級生を指導して実施しました。

(4) 防災分野研修共通プログラムの開設と運営

- 防災分野の全研修コースを対象に、兵庫で防災を学ぶ視点から阪神・淡路大震災とこれをベースとした兵庫県・神戸市の防災を学ぶ「共通プログラム」を、以下のとおり各研修カリキュラムの冒頭に組み入れて開設しました。

<共通プログラム内容>

	講義・内容	単位 (日)	講師
講座1	防災行政の組織体制・制度としくみ	0.5	兵庫県防災企画局／(財)神戸都市問題研究所
講座2	防災教育	0.5	兵庫県教育委員会／神戸市教育委員会
講座3	人と防災未来センター視察	0.5	人と防災未来センター

(短期間コースと従来から研修内容として取り扱うコースは除く。)

(5) JICA ボランティア事業（青年海外協力隊派遣）連携プログラムの実施

- 防災分野の青年海外協力隊員に対する兵庫の防災リソースを活用した派遣前技術補完研修プログラムを、次のとおり実施しました。本事業は2008 年度試行実施し、2009 年度から JICA ボランティア事業の正式なプログラムに位置付けられました。

なお、本プログラム受講者（09 年度4 次隊）が青年海外協力隊派遣前訓練で他の訓練生対象に「防災講座・ワークショップ」の実施を計画しており、今後、本活動効果の新たな広がりを期待しています。

	実施時期	研修実施者
第1回	09 年 6/1-6/5	09 年度2 次隊（09 年 9 月） コスタリカ、エルサルバドル派遣予定者（村落開発普及員・防災）3 人
第2回	09 年 12/15-12/18	09 年度4 次隊（10 年 3 月） トンガ王国派遣予定者（村落開発普及員・防災）1 人

(6) JICA の他スキームとの連携促進

- JICA の地域提案型草の根技術協力事業を活用し、神戸学院大学学際機構防災・社会貢献ユニットが計画する『スリランカ国における持続可能な「トラウマ・カウ

セリングと融合した防災教育」活動推進プロジェクト』事業実施のための調整支援を行い、2010年度 JICA 草の根技術協力事業地域提案型に採択となりました。

3. 研修修了者、所属組織、日本側リソースとのネットワーク構築促進を目指した活動

■ 国際防災研修センターウェブサイトの運営

➤ 2009年度防災分野研修参加者全員に、国際防災研修センターウェブサイト研修員限定サイトのパスワードを発行しました。また、研修教材『ひょうごの防災』多言語版（日・英・中・西・露語）及び『“BOKOMI” Guidebook』を掲載し、研修員のみならず全ての訪問者が利用できる阪神・淡路大震災関連資料を充実させるとともに、研修員限定のサイトでは、各研修コースの写真掲載や、研修員から活用要望が多かった兵庫の防災リソース（人と防災未来センターの1.17シアターでの映像）へのリンクを貼ること等により、帰国後のウェブサイト活用を促しました。

□ ウェブサイト・アドレス：<http://www.drlc.jp>

□ 利用可能な阪神・淡路大震災関連資料等

ひょうごの防災－災害文化が支える減災社会の実現－（日本語、英語、スペイン語、中国語、ロシア語）	
阪神・淡路大震災教訓集	（日本語、英語、スペイン語、ロシア語）
BOKOMI Guidebook	（英語）
災害情報音声素材集	（英語）
「DMAM (Disaster Management Audio Materials for Community Radio Broadcasting)」	

■ 帰国研修員の現地活動支援及びネットワーク形成の促進

➤ コスタリカ防災分野帰国研修員支援事業

コスタリカにおけるコミュニティ防災の現状と課題を調査し、その成果をJICA防災分野研修に還元することと、日本（兵庫県・神戸市）の経験から生まれた防災教育ツールを契機としてコスタリカにおける持続可能な防災教育ツールの案が提案されることを目的として、コスタリカの防災分野帰国研修員を中心とした防災分野関係者を対象にワークショップを実施しました。

主な成果は、以下のとおりです。

- ① コスタリカにおけるコミュニティ防災の現状と課題を把握するため、「中米広域防災能力向上プロジェクト（BOSAI）」の活動地域を調査し、調査結果をJICA地域別研修「中米防災対策」・「コミュニティ防災の実践～神戸の取組み」等の研修プログラム内容の充実を図るべく、関係者に報告会の実施等を通してフィードバックを行いました。
- ② 阪神・淡路大震災の経験や教訓から生まれ、兵庫を中心に日本全国のみならずインドネシアや中国でも実施されている防災教育ツール「イザ！カエルキャラバン！」、神戸市から世界へ発信する「BOKOMIガイドブック」（今年度英語版を作成）、その他の防災教育システムや実施例を紹介し、コスタリカにおける持続可能な防災教育ツール開発のために、関係者で意見交換を行いました。その成果として、ワークショップ実施期間中にコスタリカ防災関係者によるアクションプランを作成しました。

・実施期間：2009年11月9日（月）から11月21日（土）まで

・場所：コスタリカ国サンホセ、コバノ、カニヤス、ニコヤ

- ・ワークショップ参加者：コスタリカ側 帰国研修員、防災関係者等35名
- ・DRLC派遣員：川池業務調整員

➤ **アジア地域災害後のメンタルヘルスサービスコース帰国研修員支援事業の実施**
(JICA ソフト型フォローアップ事業)

地域別研修「アジア地域災害後のメンタルヘルスサービス」コースにおいて、2008年のサイクロン・ナルギス発生により未曾有の被害を出したミャンマーの帰国研修員を対象に、被災後の復旧・復興過程の中での活動状況、サイクロン被災地の復興状況を調査するとともに、関係者の連携と帰国研修員のさらなる活動促進を目指し、研修員を含めた同国のこころのケア専門家を交えた意見交換・セミナー・ワークショップを実施しました。

- ・実施期間：2009年11月22日（日）から11月28日（土）まで
- ・場 所：ミャンマー国ヤンゴン市、クンギャンゴン 他
- ・ワークショップ参加者：ミャンマー側 帰国研修員、こころのケア専門家等
日本側 兵庫県こころのケアセンター研究員
- ・DRLC派遣員：細川職員

➤ **中米防災研修コース帰国研修員支援事業の実施** (JICA ソフト型フォローアップ事業)

地域別研修「中米防災研修」コースを対象に、研修員関連の防災機関・地方自治体、研修員活動地域、「中米広域防災能力向上プロジェクト (BOSAI)」実施地域等を訪問し、帰国研修員の活動支援を行いました。

- ・実施期間：2010年2月27日（土）から3月14日（日）まで
- ・場 所：研修対象3国 エルサルバドル、ニカラグア、グアテマラ
- ・DRLC派遣員：細川職員

4. **防災分野の国内リソースに係るデータベース整備の促進を目指した活動**

■ **帰国研修員及び研修リソースデータベースの整備**

- これまでに整備した帰国研修員データベースを、前項の帰国研修員支援事業における帰国研修員選定で活用しました。

また、JICA 防災分野研修で人的リソースを効果的に活用するため、JICA 兵庫の所管範囲に留まらず、広く JICA 国内機関が関連する国内防災リソースの情報を収集・整理して、リソースデータベースの整備を行いました。

5. **その他、阪神・淡路大震災リソースを活用した活動**

■ **中国四川大地震支援事業への協力・支援**

- 四川地震復興支援に関して JICA が 2009 年 6 月から 5 か年計画で実施する「こころのケア人材育成プロジェクト」の具体活動に際して、兵庫の防災リソースの調整等により実施支援を行いました。

支援活動	実施期間	内容
詳細計画策定調査団派遣調整	09年4/26-5/2	①兵庫県内有識者5人を派遣 ②プロジェクトを開始するに当たっての合意文書(討議議事録:R/D)署名への立会い、被災地訪問と意見交換を実施
第1回国別研修「災害後のこころのケア計画」研修員の受入れ	09年6/10-20	①中国側関係者18人の受入れ ②阪神・淡路大震災と新潟県中越地震後の日本の事例を視察し、両国関係者で意見交換を実施
第1回現地セミナーへの短期専門家派遣調整	09年7/18-23	①兵庫県内の有識者6人を派遣
第2回「災害後のこころのケア計画」研修員の受入れ	09年10/18-27	①中国側関係者18人受入れ ②兵庫県内に留まらず日本国内の精神保健専門家が講師として担当
第3回「災害後のこころのケア計画」研修員の受入れ	09年12/3-18	①中国側関係者8人受入れ ②既存の地域別研修「アジア地域災害後のメンタルヘルスサービス」と併せて実施
第2回現地セミナーへの短期専門家派遣調整	10年1/18-24	①兵庫県内の有識者6人を派遣

- 四川地震復興支援に関して JICA が 2009 年 6 月から 3 か年計画で実施する「耐震建築人材育成プロジェクト」の国別研修受入れ（地域別研修「災害に強い学校～コミュニティへの耐震建築の普及に向けて」に上乗せ）を行いました。また、今後の研修員受入に向けた計画策定に関して、2009 年 12 月 7-8 日に兵庫県内関係機関（アジア防災センター、神戸大学都市安全研究センター）と同プロジェクト長期専門家水谷氏・JICA 本部担当木村氏との意見交換の場を調整しました。

■ ハイチ地震支援研究会への協力・支援

- 2010 年 1 月 12 日に発生したハイチ地震後の復旧・復興支援に向けて、阪神・淡路大震災の教訓を活かすべく、兵庫県・神戸市及び県下の自治体や、研究・教育機関、国連機関、NGO・NPO 等が兵庫からの支援を検討する自主研究会を支援し、日本政府を代表して JICA が参画する支援国・機関現地復興ニーズ調査に対して「兵庫の支援メニュー」の整理を行いました。

- ① 第1回ハイチ地震支援研究会（キックオフミーティング）開催支援
 - ・開催日：2010年1月30日（土）
 - ・場所：JICA兵庫
 - ・参集者：兵庫県、兵庫県国際交流協会、人と防災未来センター、アジア防災センター、IRP、UNCRD、JICA 19人
- ② 第2回ハイチ地震支援研究会開催支援

支援国・機関現地復興ニーズ調査に向けた「兵庫県・神戸市からの支援提案リスト」を取りまとめ、JICAに提出しました。

 - ・開催日：2010年2月25日（木）
 - ・場所：JICA兵庫

- ・ 参集者：兵庫県、兵庫県国際交流協会、神戸国際協力交流センター、人と防災未来センター、アジア防災センター、IRP、UNISDR、兵庫県こころのケアセンター、JICA 19人
- * 同日、引き続き学・民部門で防災活動を行う団体との意見交換会を実施しました。

③ 第3回ハイチ地震支援研究会開催支援

最初にアジア防災センターの是澤所長が現地調査（3/4～12）の報告を行い、続いて兵庫県国際交流協会の齋藤理事長がマイアミ会議での報告を行いました。報告の後、今後のハイチ支援について幅広い意見交換を行いました。

- ・ 開催日：2010年3月30日（火）
- ・ 場所：JICA兵庫
- ・ 参集者：兵庫県、兵庫県国際交流協会、人と防災未来センター、アジア防災センター、IRP、UNCRD、よろず相談室、関西学院大学災害復興制度研究所、AMARC日本協議会、神戸大学都市安全研究センター、JICA

21人

【別添】

- ・ 2009年度 JICA 兵庫 防災分野研修コース一覧（国別研修を除く）……別添1

2009年度 JICA兵庫 防災分野研修コース一覧（国別研修を除く。）

JICA兵庫／国際防災研修センター

コース名	背景及び目的	期間、人数、委託先
海難救助・海上防災	発展途上国における海難救助・海上防災体制の向上に資するため、わが国の海上保安庁の持つ知識・技術を研修員が修得する。研修員は、研修で学んだことをもとに、同分野における自国の課題・問題を解決するための行動計画を策定し、帰国後に当該行動計画の実施に向けた取り組みを行う。	時期：8/24-11/14 研修期間：83日 実績：14名 委託先機関：海上保安協会
都市地震災害軽減のための総合戦略（A）	1995年の阪神淡路大震災を経験を活かし、大都市における地震災害の軽減を目指し、工学、医学、理学、社会科学等他分野から構成される総合戦略を理解してその実践方法を修得する。基本的な考え方は、(a)事前策としてリスクアセスメントの手法 (b) 事中・後対応策としてリスクマネージメントの手法 (c) 事前・事後を通じたリスクコミュニケーションの手法を理解し、各国の実情に応じた戦略を討議を通じて整備することを目的とする。	時期：5/18-7/3 研修期間：47日 実績：8名 委託先機関：神戸大学
都市地震災害軽減のための総合戦略（B）		時期：10/5-11/20 研修期間：47日 実績：12名 委託先機関：神戸大学
総合防災行政	わが国は台風の常襲地帯に位置し、地震・火山活動の活発な環太平洋地震・火山帯にあり、歴史上津波災害も数多く気象的にも地質的にも災害大国といえる。このため、過去幾多の自然災害による被害の経験と教訓を踏まえ、防災対策と災害対策の向上に努めてきた結果、世界においてトップクラスの防災先進国となった。本コースはわが国の国際防災協力の一環として諸外国の防災対策・防災対策担当者とこれら知識を共有し、自然災害の被害軽減を図ることを目的とする。	時期：1/15-2/26 研修期間：43日 定員：17名 委託先機関：アジア防災センター
南西アジア地域 —災害に強い学校 (コミュニティへの耐震建築の普及に向けて)	災害時に地域の避難場所ともなる学校を焦点に、途上国に適用可能な実際の免震・耐震技術と制度に係る実務能力強化と、耐震建築のコミュニティへの普及を図り、安全な学校とコミュニティへの普及を目指すものである。	時期：10/26-11/20 研修期間：26日 実績：10名 委託先機関：神戸国際協力交流センター
中央アジア・コーカサス地域・防災行政	参加者が中央アジア・コーカサス地域諸国の防災対策の現状と課題を理解した上で、本邦研修を通じて、参加者の所属機関における防災体制の改善策を策定することを目的とする。	時期：7/6-8/7 研修期間：33日 実績：12名 委託先機関：アジア防災センター
アジア地域 —防災文化の普及と定着	阪神・淡路大震災をはじめ、近年の自然災害で、住民の防災意識の向上や防災教育の重要性・必要性に対する認識が高まっている。市民に防災意識を根付かせるための活動・取組み（学校防災教育を含む）を、各国の実情に適した形で考え、実践する。	時期：8/31-10/2 研修期間：33日 実績：9名 委託先機関：アジア防災センター
中東・アジア地域 —コミュニティ防災の実践	住民主体による自主防災組織の設立やコミュニティ防災活動を推進しうる立場にある機関を対象に、自然災害に対する総合的な防災の重要性を理解し、コミュニティにおける防災活動と福祉活動が連携した「防災福祉コミュニティ」の自助・共助の概念と設立手法を身に付ける。	時期：8/17-9/18 研修期間：33日 実績：10名 委託先機関：神戸市防災安全公社
中東・アジア地域 —災害に備えた看護 コーディネータの育成	近年の自然災害において、医療と環境整備とを統合した看護の重要性が確認され、災害に備えた看護コーディネータの育成が求められている。本コースでは、災害初動時、中期・長期復興期、平時の備えといった災害サイクルに応じた看護活動や必要な視点を、阪神・淡路大震災の教訓を交えながら紹介し、各国において災害に備えた看護コーディネータを育成するための体制整備・レベル向上を図る。	時期：8/31-10/2 研修期間：33日 実績：4名 委託先機関：兵庫県立大学地域ケア研究所
アンデス地域・災害医療 マネジメント	多様な自然災害が多発するアンデス地域では、各国の災害発生時の行政と医療機関のマネジメント体制整備と、域内協力・ネットワーク作りにより、同地域の災害医療のキャパシティを底上げすることが求められている。本コースでは、わが国、特に阪神・淡路大震災からの復興を通じて整備された災害医療体制を紹介し、域内国の「連携」に焦点を当てて各国の体制整備を促進し指導する人材育成を支援する。	時期：10/30-12/11 研修期間：43日 実績：13名 委託先機関：兵庫県災害医療センター
中米地域・防災対策	中米防災に関連する様々な機関（中央・地方政府、研究機関、市民組織）の協働により、防災文化や災害軽減マネジメントが発展・促進されるよう、特に中央・地方政府における防災分野の課題解決能力が強化されることを目的とする。中米広域防災センターとの連携、JICA広域防災プロジェクトとの連携のもとに実施する。	時期：11/6-12/4 研修期間：29日 実績：12名 委託先機関：人と防災未来センター
中東・アジア地域自然災害からの復興戦略 ～阪神・淡路大震災からの教訓	研修員が、阪神・淡路大震災からの復興について、現場での実務経験からの教訓・反省を共有しソーシャル・キャピタルの有効活用という観点に着目して復興の取り組み方を考察し、自国の災害復興のための具体的なプラン策定を行うとともに、研修員の所属する国において、災害発生後、速やかに効果的な復興ができる体制をつくることを目指す。	時期：1/15-2/26 研修期間：43日 実績：10名 委託先機関：神戸国際協力交流センター
アジア地域災害後のメンタルヘルスサービス	阪神・淡路大震災をはじめとする日本や世界の経験を含めた災害メンタルヘルスケアについて理解した上で、参加者が自国における災害メンタルヘルスサービスの改善策を策定することを目的とする。	時期：12/5-12/17 研修期間：13日 実績：21名 委託先機関：こころのケアセンター

受入れ研修員数：152人

受け入れ国数：47か国

【受入国】

アルジェリア、アゼルバイジャン、アルメニア、イラン、インド、インドネシア、ウガンダ、ウズベキスタン、エクアドル、エルサルバドル、ガブラスタン、カンボジア、キルギス共和国、クアタール、ケレタ、コスタリカ、コロンビア、サア、シリア、スリランカ、ソマリア、タイ、タジキスタン、トルメニスタン、トルコ、トンガ、ニカラグア、ネパール、ナイチ、パキスタン、パナマ、パレスチナ、バンラテ、フィリピン、フィジー、ブータン、ベトナム、ベネズエラ、ベリーズ、ベルギー、ボリビア、マドニヤ、マレーシア、ミャンマー、メキシコ、モルディブ、中華人民共和国